



報われない努力あり 無駄な努力なし

4月大教会教会長会議

立教188年4月14日

大教会長 片山幹太



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R250416-0421-22
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【5月1日～5月31日】
朝づとめ 午前6時15分
夕づとめ 午後7時00分

教祖年祭が近づくと、天理スポーツが活躍するような印象があります。たとえば教祖100年祭がつとめられた昭和61年の夏、本島大教会5代会長就任奉告祭の日に天理高校野球部が甲子園で初優勝し、同じ年に天理高校二部の軟式野球部も神宮で初優勝しました。教祖年祭はスポーツを通して天理の名が弘まると印象があります。

その中でも今日は天理柔道の話をしたいと思います。

令和元年10月26日、本島詰所の「おかえり講話」で、天理大学柔道部監督穴井隆将先生をお招きしてお話をいただいたことがあります。

穴井監督のお話で強く印象に残った言葉は「報われない努力はあるが、無駄な努力はない」です。

2012年ロンドン五輪のとき、穴井選手は金メダルを期待されながら2回戦で敗退してしまい、大変落

教祖140年祭活動

斯道会 別席団参

立教188年 / 2025年
5.25
and
11.30
SUNDAY

さあ、年祭活動
仕上げの年
ご存命の教祖に
お喜びいただこう

5月25日(日) 本島プログラム
記念講演：10:00～11:00 第2食堂
講師：渡辺道治先生(教え方の学校主宰)
お願いづとめ：11:30 東礼拝場
前夜祭：本島詰所4階講堂
5月24日(土) 19:00～20:30

ち込まれて柔道を辞めようと思いつめられたそうです。そこに周囲の励ましがあがり、翌13年は全日本選手権で見事4年ぶり2度目の優勝を飾って現役引退。続いて天理大学柔道部監督に就任され、さらに東京五輪組織委員会のアスリート委員会の委員にも選定されました。

勝負の世界にあつて、勝つまでに大変な努力を積み重ねてこられた事実があり、その上に教祖年祭活動の後押しがある。たとえ報われない結果であったとしても、それまでの努力は決して無駄ではなく、旬がくれば実るのが天理ということだと思えます。

穴井監督の話に戻りますが、いま穴井監督の指導を受けたいと、今年も多くの優秀な学生が天理に集まってきたという話を聞きました。関東の強い学生は、関東の強い大学に進学するのが普通なのだそうですが、高校で結果を出した学生が、わざわざ穴井監督の指導を求めて関東から天理に進学するケースが現れているそうです。天理の「一本を指す柔道」をやりたいと集まってくる人材が、とても嬉しく楽しみに思います。

報われない努力、願い通りの結果は見せていただけなかったとしても、歩んだ歩んだだけ、努力したら努力しただけ、必ずなにかの姿で見せていただける。無駄な努力はないと信じて、年祭活動の残り勇んで歩ませて頂きましょう。

(文責・本島通信編集室)

心勇んで声をかけ 教祖の御心を伝えましょう

大教会役員夫人 井上みつの

只今は4月の月次祭を、大教会長様を芯に皆さま方とともに、一手一つに陽気につとめさせていただきました。誠にありがとうございます。

大教会長様よりご命を頂きましたので、届かぬ者ではございますが一生懸命つとめさせていただきます。

本日は、私がおちばでお育て頂いた中で、学ばせて頂いたこと、また



おちばを離れて、教会をお預かりしからのこと、今も心に残ることなどをお話させて頂きたいと思えます。

教祖御誕生祭を控えたおちばは、これから新緑の季節を迎えます。古事記の中にある倭建命ヤマトタケルノミコトが詠んだ

「大和は国のまほろばたなづく青垣山うらわごもれる大和し美し」の歌のよ

うに、おちばの東に連なる山々が教祖のご在世中当時と変わらず、青々と色づき、大和青垣ともいわれる山並みを望むことができます。

一方で、私の幼いころのおちばの町並みは、現在とはだいぶ違っておりました。

おちばへの最寄り駅は旧国鉄の丹波市駅でした。ちょうど現在の駅前交番のあたりに線路があり、丹波市

駅があったように思います。当時はまだマイカーも普及していませんでしたから、おちばがえりするには、鉄道か団参バスがほとんどだったと思います。

月次祭のころになると、青年さんが列車の到着時刻に合わせてリヤカーを引いて駅まで行き、帰参者の荷物を運んでいたように記憶しています。

それが教祖80年祭を前にした昭和40年9月1日に国鉄と近鉄が乗り入れる天理総合駅となりました。

そのころのおちばは、東西礼拝場もまだ仮西礼拝場、仮東礼拝場と呼ばれており、仮の礼拝場でありました。教祖80年祭の前年に炊事本部ができて、詰所への配食も始まりました。

本島詰所は当時、天理本通り近くの、現在の南詰所のところになりました。道路をはさんで2つの建物に分かれて建っている、そのような詰所でした。古い詰所を覚えている方も、もうだいぶ少なくなりました。

私は旧本島詰所から学校へ通わせて頂きました。父は片山俊次三代會長様の車の運転をしながら、詰所のご用をしておりました。子どものころ、家族で食卓を囲み、さあ食べよ

うと父が箸はしを手にとると、青年さんが「大教会長様が出かけられます」と呼びに来られます。すると父は、そのまま箸を置き、飛んで行きます。そんなことは一度や二度ではなく、たびたびありました。

私たちは「ひと口でも食べて行けばいいのに」と思ったものでした。

私は少し大きくなったころ、父にどうして大教会長様に呼ばれたら飛んで行くのと尋ねたことがありました。父は「大教会長さんは、おちば、ご本部のご用を懸命につとめられている。その様子を間近で見ているので、自分は大教会長さんひと筋につとめるんや」と答えてくれました。

そのころおちばでは、「おやさとかかた」のふしんを始め、おやさとの整備が次々と進められておりました。まだ子どもだった私は知るよしもなかったのですが、当時の三代會長様は大教会の神殿ふしん落成後、昭和37年に本部営繕部長、その後本部准員に登用され、本部常詰、営繕部長兼電気課長を勤められるなど、そのほかにもさまざまな役職を歴任され、加えて本島部内の修理丹精に奔走されて、どれほどお忙しかったのだらうと拝察いたします。

三代会長様は常にちび、ひと筋につとめておられたのだと思います。

そのようなお忙しい中、第46母屋本島詰所のふしんも始まり、教祖90年祭をおよそ半年後に控えた昭和50年6月24日に新しい詰所の開所式が行われました。

まもなく教祖140年祭を迎える今年には、現在の詰所ができてからちょうど50年目になります。

50年前を振り返りますと、新しい詰所になったとき、母は食堂の責任者のご命を頂きました。その際、片山コズエ三代会長奥様から、母にお話がありました。その中でコズエ奥様は「布教師がいつ別席者を連れて帰って来ても、ラーメンでもよいから食べさせてあげてな」と言われたそうです。

母はコズエ奥様のこのときのお話を常に心に置いてつとめていたように思います。

私はこの話を母から聞いておりましたが、私も詰所勤めをするようになり、若いうちは、コズエ奥様のお話を言葉通りに受け止めておりましたが、自分も年を重ねるにつれ、この言葉の奥にあるものは、教会や

布教師の方が、別席者をおぢ、へお連れするまでの苦労や、その道のりの大変さをコズエ奥様はよくご存知で、それを思いやってほしいということだったのではないかと思うようになりました。

コズエ奥様の本島の母としての大きな親心からのお話であったと思います。

詰所には国内を始め、遠く海外からも教祖を慕っておぢ、へ帰ってこられる信者さん方が宿泊されます。教祖は、

「この家へやって来る者に、喜ばさずには一人もかえされん。親のたあには、世界中の人間は皆子供である。」

と仰せくださいました。

おぢ、へに、また詰所に帰ってこられる信者さんに、喜んでいただくには、この教祖のお心を忘れずにつとめなければならぬと思うのですが、信者さんに喜んで帰っていただくには、自分はどうのようにつとめれば良いのかと考えてみますと、まずは「ようこそおかえり」の気持ちと態度で信者さんと接することから始まるのではないかと思います。

私は、今は詰所を離れ、一教会の

一人の帰参者という立場でありますが、詰所に帰ったときは、帰って来られている信者さんに、心を込めた「ようこそおかえりなさい」の声をかけ、「ようこそおかえり」の気持ちで接していこうと思います。

また詰所には教祖の御教えを学ぶ修養科生や、講習生、専修科生、海外からの留学生、ご本部に勤める人、さらに事情、身上をかかえながら詰所のひのきしんをする方々など、さまざまな方が親神様のご守護を願い、伏せ込むところ、生活するところですから、その方々のお手伝いをし、お世話取りをして、常に心を配ることが大切なのだということを学ばせて頂きました。

新しい詰所に移って間もないころ、ある先輩女子青年の方がに、いがけに行かれた奈良公園で、3人の子どもを連れた婦人に声をかけ、「子どもたちを鼓笛隊に入れませんか」と勧められたところ、分隊練習に参加することに、私はその子どもたちのお世話取りを頼まれました。

それから間もなくして、その女子青年さんは結婚が決まり、この子どもたちの今後の世話取りをすべて私

に託され、お嫁に行かれました。

私は毎月の分隊練習後の送り届けや、春夏の合宿の世話取りを続けておりましたが、およそ10年が経ったころ、その親御さんから一番下の娘さんが天理中学校を受験したいとの申し出がありました。

私はおぢ、への学校を選んでくれたことが嬉しく、すぐに受験の手続きを手伝わせて頂きました。娘さんは天理中学校に合格し、それを機にお母さんは初席を運んで下さいました。娘さんは天理中学校から天理高校へと進み、3年生のときおさづけの理を拝戴され、よう、よくとなりました。その前後にお母さんも順々に別席を運ばれ、よう、よくになりました。そして現在も親娘ともつながってくださっています。

私はといえば神様のお話をしたわけでもなく、ただお世話を続けていただけでしたが、2人のよう、よくのご守護を頂いたことは、未熟な私を見かねて親神様・教祖がお働き下さったのだと本当にありがたいことだと思っています。

その後しばらくして、片山よ志ゑ前会長様のご命を頂き、主人が教会

をお預かりすることになり、平成4年に任命・移転・改称の理のお許しを戴き、おぢばを離れて、家族揃って香川県の西の端にある三豊市へと移り住みました。

教会名の改称にあたり前会長様は「一から始めるので、ただただ勇んでほしい」と「本勇」という教会名称をつけて下さいました。

このとき一番下の子はまだ生後2ヶ月で、教会で新しい生活が始まりました。

教会のある場所は、ぶどう畑と田んぼの広がるのどかなところでした。おぢばで育ち、おぢばでしか生活したことのない私にとっては、経験したことのない村の風習、冠婚葬祭などの文化の違い、子どもが通う学校とおぢばの学校の違いに戸惑うことが多くありました。

さらに教会に移って間もなく、会長が身上で入院したことで、途方に暮れることもありました。

教会は土地処の手本ひながたとお聞かせいただいておりますが、とても手本とは言えない毎日でした。それでも落ち込んだときは、前会長様がつけて下さった「本勇」という名称に励まされ、勇んで通ろうという思

いになりました。本当にありがたかったと思っております。

そして今から数年前のお正月のことになりますが、先ほどお話ししました鼓笛隊に入っていた3人兄妹の長男(関東在住)から、およそ40年ぶりに年賀状が届いて、「今ギターを習っていて、ギターを弾いていると、子どものころの鼓笛隊のことが懐かしく思い出されて、年賀状を書きました」と書かれていました。

お母さんから息子さんたちの様子は聞いていましたが、長男の方とは40年間、音信もなく会ったこともありませんでした。当時、鼓笛隊の合宿にも自分から進んでいくというよりは、親に行かされているという感じでした。それでも鼓笛隊のことを懐かしく思い出してくれたことがとても嬉しく、すぐに返事を書きました。

それから2年が経ったころ、この長男の方が重い身上になったことを知りました。そして半年ほどの闘病の末、53歳で出直されました。

私はお母さんを慰め、お願いづつめをつとめることしかできませんでした。この方のためにもつとできる

ことがあったのではないかと、自分にはおたすけ心が足りなかったと、今も後悔しています。あの時の突然の年賀状は何だったのでしょうか。今も不思議な思いがしています。

この方が出直されたことは、この上なく悲しく残念なことでしたが、片山昇四代会長様が育てられた本島鼓笛隊によって、おぢばや大教会で、たとえ子どもであってもお道の教えに触れたことが、この方の心に残り、何十年経っていても思い出されたことに、感謝の思いで胸がいっぱいになります。

最後に本年一月のご本部春季大祭での内統領・宮森与一郎先生の神楽講話の一部を引用させて頂きます。

宮森先生はご講話の中で、「私たち、よふぼく一人ひとり、先祖の思いを、お心をお伝えする取次人です。伝える内容は『おぢばへ』です。『道の辻で会っても掛けてくれ』と仰せられるのですから、たとえ『おぢばへ行ってみませんか?』と、ひと言しか言えないとしても、それでいいではないですか。『難しいことをせいな』とも、紋型無き事をせいと『わん』

(明治22・11・こ)と仰せられるのです

から、自分の言葉で、自分の意志で、『私とおぢばへ』を声に出して伝える。いまは、そのときです。

おさしづに、元という、ぢばというは、世界もう一つと無いもの。思えば思う程深き理。(明治28・10・11)

とあります。遠くに住まわれている方は、物理的に、回を重ねてのおぢば帰りは難しいでしょう。たとえ近い所であっても、時間的に忙しい人はおぢばへ再三帰るのは難しいかもしれません。

でも、大切なことは、どんな気持ちでおぢばへ帰るか、どんな心で来年の年祭当日までの一年間おぢばを思い続けるかです。また、どれだけ『おぢばへ』との思いを周りの人たちに伝えられるかです。たとえ世界中のどこにいても、おぢばこそ、このおぢばだからこそと私たちが思えば思うだけ、親神様のご守護は深まっていくはずですよ。」

この宮森先生のご講話を聞かせて頂いて、私が改めて思いましたことは、これまで何度もおたすけの機会を逃している私ですが、今、私の周りにも身上の方、事情をかかえた方

がおられます。その方たちに「おちばへ行ってみませんか」と勇気を出して声をかけてみよう。そして少しずつでも、教祖の思い、お心を伝える努力をしていこうと、改めて思いました。

私たちは、この月は教祖御誕生祭があり、5月と11月には斯道会別席団参、そして迎える教祖140年祭とおちばがえりができる大きな機会を与えて頂いております。私もおちばの理を戴き、一人でも、何人でも、

また何度でもお連れして、教祖にお喜び頂き、ご安心頂ける年祭となりますように、年祭当日まで心勇んでがんばりたいと思います。

ご清聴頂きましてありがとうございます。

【文責・本島通信編集室】

ご報告

片山幹太郎君は立教188年4月18日付で本部青年に登用されました。

本福分教会 神床位置変更 鎮座奉告祭

本福分教会(上田敬子会長、広島県福山市)では、昨年7月26日のお運びで神床位置変更願の理のお許しを戴いておりましたが、工事が予定通り竣工しましたので、お許しいただいた通り3月30日に大教会長夫妻を迎え(随行・大西知役員)、神床位置変更奉告祭を執り行いました。参拝者25名。

本福分教会の神殿は昭和50年、山内エミ子3代会長就任と同時に現在地に移転して以来、50年間使用してきましたが、老朽化が進みましたので、談じ合いの末、神床位置変更の普請をお願い出ることになりました。



当日は春の肌寒さが残る中、快晴のもと、教会の教信者のみならず多くの教友も駆けつけ、奉告祭が賑やかに勤められました。

挨拶に立った大教会長は、「教会とはたすけ道場であり、おちばの出張り場所です。親神様・教祖が世界たすけのため、出張ってください、ご用くださるところです。私たちは親神様の懐住まいで暮らしているのですが、そのことを実感できるのが教会です。」と教会について述べられた上で、「親神様と人間は親子の関係になります。作物をつくるとき、畑に種をまくのは人間ですが、火水

風のお恵みをくださり育ててくださるのは親神様です。親神様と人間が協働することで陽気ぐらしに向かっての歩みがあると言えます。」と天然自然の理合いを述べられ、締めくくりに「教祖140年祭に向かって、教会ふしんのお礼もかねて、斯道会別席団参にはぜひおちばがえりしましょう」と呼びかけられました。

続いておつとめが陽気に勇んで勤められました。

大教会長動向

▼5月(予定)▲

- 3日、香川教区役職者会議
- 11日、本福分教会 創立100周年記念祭
- 22日、本島大教会月次祭執行
- 24日、斯道会別席団参前夜祭
- 25日、斯道会別席団参
- 26日、本部月次祭参拝
- 24日、かなめ会
- 28日、新任教会長の集い
- 29日、6月4日、米国巡教
- 30、31日、タミナル教会 鎮座奉告祭

以上

なお奉告祭に先立ち、前日の3月29日晩に鎮座祭が執り行われ、車で約10分離れた借家の仮神床より親神様・教祖お目標様と祖霊様にお遷りいただき、新しい神床へ滞りなくお鎮めされました。

四月月次祭 祭典役割

四月月次祭祭文

立教百八十八年四月十四日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には一れつ子供をたすけ上げたいとの深い親心から教祖をやしるにこの世の表にお現れ下され世界たすけの元の理を示して御教えをお啓き下さいました親心の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共はご存命でお働き下さる教祖のお導きを頂いて陽気ぐらしへの成人の道を恙なくお連れ通り頂いておりますがその中にもこの月は教祖がお生まれ遊ばされて二百二十七回目の御誕生日をお迎えするゆかりの月に当りますので只今からおつとめ奉仕者一同一手一つに心を合わせて座りづとめてをどりを陽気につとめて四月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には今日を樂しみに帰らせて頂いた道の子供達が共におうたを唱和して一筋心に尚も変らぬ御守護にお継りする眞実の状をもご覧下さいます親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます尚この月おちばでは十八日の教祖誕生祭のお慶びに続いて「よろこびの大合唱」が本部中庭にて執り行われます 道の子みんなどお祝い申し上げます
又二十九日の恒例の「全教一斉ひのきしんデー」には各地で道のよふぼくが家族

揃って日頃の御守護に感謝申し上げますひのきしんに励んで御厚恩にお応えさせて頂く所存でございます

更には又五月二十五日の「斯道会別席団参」に向けては度重ねて多くの方々をお誘いしておちばに帰らせて頂き御存命の教祖にお喜び頂けるよう心勇んでつとめさせて頂きたいと存じます

何卒届かぬ私共ではございますがこの上共に自由の御守護を賜わり陽気ぐらし世界建設に向けて人々の心が澄み巨り一手一つに勇み立つ世の状に一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます
(原文のまま)

神殿講話	祭主	大教会長	座りづとめ	老木邦光	賛者	原口実
	指方	井上哲		西山道教		高島栄造
	井上	哲		西山道教		高島栄造
ちやんぼん	てをどり	大教会長	てをどり前半	向所隆文	てをどり後半	横山富明
		片山勲		原口実		長尾海和
		寺本教生		高垣光治		吉田知彦
拍子木	てをどり	会長夫人	てをどり後半	岩橋元実	てをどり後半	梅木澄代
		前会長		伊東晴美		上田敬子
		片山やすゑ		雲庵瑞穂		肥後良子
ちゃんぼん	てをどり	平井真治郎	てをどり後半	雲庵春彦	てをどり後半	橋口徹
		窪田靖明		奥村龍夫		江草克二
		岩橋慶三		高島栄造		香川勝巳
太鼓	てをどり	吉田晴雄	てをどり後半	片山直明	てをどり後半	山下英久
		老木邦光		横山正次		古井信
		岩橋竜造		永山晴明		片山美穂
小鼓	てをどり	池田さわみ	てをどり後半	井上みつの	てをどり後半	片山美穂
		長尾澄子		高垣洋子		長尾善絵
		向所暉美子		永山みすゞ		四辻朝恵
三味線	てをどり	大教会長	てをどり後半	後藤正治	てをどり後半	宮路和徳
		西山道教		伊東康成		長濱充憲
		井上哲		大上道徳		茶屋原良昭
胡弓	てをどり	大教会長	てをどり後半	向所隆文	てをどり後半	横山富明
		片山勲		原口実		長尾海和
		寺本教生		高垣光治		吉田知彦
神殿講話	てをどり	大教会長	てをどり後半	向所隆文	てをどり後半	横山富明
		片山勲		原口実		長尾海和
		寺本教生		高垣光治		吉田知彦

献饗長 平井真治郎
 伝 向所隆文・永山晴明・大上道徳・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・長尾海和・岩橋秀一・香川勝巳・鎌田典夫・白垣初生・宮路和徳・村田輝夫・橋口徹・肥後生(順不同)

後信・古井信・上山康雄・川村吉夫・溝口晋太郎・松下尚一・江草克二
 雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・片山秀明・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・白垣俊生(順不同)

入社祭

立教188年4月14日の入社祭はありました。

4月14日(月)
【香川県丸亀市】

天候 晴後雨時々曇

最低気温 8.7℃

最高気温 11.5℃

平均気圧 1002.1 hPa

平均湿度 69%

平均風速 2.7 m/s

日照時間 5.6 時間

降水量 4.5 mm

※降水量は一日の総雨量

第113回本島団鼓笛隊春季合宿

本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、3月28日から4月1日までの4泊5日間、本島大教会を会場に第113回春季合宿を実施。新隊員12名を含む総勢101名(下りチーム12名、本隊45名、高校生9名、リーダー35名)が参加しました。



合宿が始まると同時に冬が戻ったような花冷えの気温となりましたが、元気に練習に取り組み、さらにおてなおい、ひのきしんなど、さまざまプログラムをこなしました。

29日朝には「春の学生おぢばがえり」に参加していた学

期間中、婦人会MOMOの会が「鼓笛隊応援ひのきしん」として、隊服ワッペン付けや練習着の修繕、食堂ひのきしんを和やかに行いました。

また元リーダーである大西知先生による指導も行われました。

31日は神殿前広場にて御供演奏を実施。「エレメンタリーマーチ」「スコットランド・ザ・ブルー」No.2「Lets go」

「おぢば」「パレード・ザ・ホンジマ」とアンコールに「ショーのテーマ」を演奏しました。

続く閉講式で挨拶に立った大教会長様は、鼓笛隊をカ

カレールーと一つになって美味しくなり、リーダーが混ぜ棒となって隊員どうしが心と技を磨き、それぞれの美味しい徳分を高め合って、本島鼓笛隊が出来上がります。隊員はたすけあう心、素直な心をもって、これからも大勢の人に喜んでいただけるよう練習に励んでください」とご挨拶がありました。

「おぢば」「パレード・ザ・ホンジマ」とアンコールに「ショーのテーマ」を演奏しました。

なお合宿ではひのきしん者30名がつとめたほか、教会や個人からおやつなどたくさん

夕づとめ後、6年ぶりとなるパーティーを催しました。リーダーの演奏で入場、ひのきしんの皆さまの手によるご馳走をいただき、高校生のダンス、リーダーの催し物で盛り上がる楽しいひとときを過ごしました。

前日の27日に直属参加者が本島詰所に集合し、夕づとめ後に東西水プール前広場で催された前夜祭「春Fes」に参加。模擬店やステージイベントを楽しみ

今年の「春の学生おぢばがえり」は、テーマ「心をつなぎ輪になって、喜びあふれる春学」を掲げ3月28日に親里で開催され、本島学生会(片山直道委員長)では24名(直属参加14名、教区参加10名)、本島学生担当委員会(雲庵春彦委員長)7名が集いました。

最後に次期委員長に片山昇太氏、副委員長に長尾直太郎氏を選び、来年の教祖140年祭「春の学生おぢばがえり大会」に向けて活動を活発に行うことを約束して解散しました。

春の学生おぢばがえり24名



ました。

28日、午前10時より本部中庭での式典に参加。その後、詰所に戻り直属アワーでは教区参加者が合流し、詰所駐車場でバーベキューを楽しみ、その後ドッジボールなどを通して交流しました。

最後に次期委員長に片山昇太氏、副委員長に長尾直太郎氏を選び、来年の教祖140年祭「春の学生おぢばがえり大会」に向けて活動を活発に行うことを約束して解散しました。



個人からおやつなどたくさん

個人からおやつなどたくさん



第107回婦人会総会・本島支部の集い

天理教婦人会第107回総会は、4月19日午前9時30分より本部中庭を主会場に開催され、本島支部(片山かおり支部長)から150名(本島詰所受付分)が参加。夏日と年祭活動仕上げの熱気が会場を充たす中、婦人会長様のご挨拶、真柱様のメッセージを聞かせていただきました。

その後、本島詰所に戻り、総会のふりかえりを行いました。11班に分かれ、約1時間、真柱様と婦人会長様のお言葉を受けて、思うところを話し合いました。



また総会に先立ち、前日18日午後6時30分より「本島支部の集い」を詰所4階講堂にて開催。91名が集いました。片山かおり支部長の挨拶に続いて、昨年8月29日に陽気

ホールで行われた「斯道会婦人の集い」における深谷善太郎・河原町大教会長様の70分のご講話を、動画で視聴しました。

深谷先生は女性の徳分の素晴らしさと「結構源さん」に始まる斯道会の信仰について、「①与えを喜ぶ、②喜びにくいことを喜ぶ、③喜べないことを喜ぶ、喜んで通れないと

ころ喜ぶのが親神様に受け取っていただける種になる。」と斯道会の道の原点をお話くださり、さらに斯道会別席団参を目指して相手に合わせたに、いがけと、相手が話を聞いてくれるように自分自身の理づくりの大切さについてお話くださいました。

婦人会MOMOの会

婦人会本島支部MOMOの会は3月28日から4月1日まで、「鼓笛隊応援ひのきしんと勉強会」を実施。期間中20名が参加しました。



ひのきしんは、朝の神殿掃除に始まり、食堂のお手伝い、鼓笛隊服のワッペン付けなどを行いました。

教理勉強会では、YouTubeの教理動画を視聴し、その後雑談しながら振り返りを行いました。

さらに着付け勉強会では朝田奈美さん(直属ようぼく)を講師に、1日目は肌着の着方、補正の説明、長着の着方を。2日目は帯の結び方。最終日は着付けと作り帯のつけ方を学びました。

なお今年7月には、こどもおぢばがえり期間中に鳴物の勉強会を予定しています。

青年会マンスリー隊

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、毎月一度「帰ろうぜ!本島!マンスリー隊」と題し、おもに大教会の祭典準備を行っています。第7回を4月12日に実施し、20名が集いました。(青年会員11名、青年会OB4名、女子青年5名)

月次祭の前に、餅つき、調餼、裏参道整備、食堂床のポリッシャー洗浄などを行いました。次回は5月18日(日)に実施予定。



シカゴの図書館で天理教講座

アメリカ・シカゴ市の中心地にあるスウェンボル図書館において、文岡邦人氏（ミッドウエスト教会長が4月17日午後6時（日本時間4月18日午前8時）より「天理教紹介講座」を開催。対面講座に8名、オンライン講座に9名の参加者がありました。

スウェンボル図書館は約150年の歴史ある図書館で、この事務局が主催する宗教文化講座に文岡氏が招待され実施されたもの。

講座は約50分間、天理教の概要・簡単な教史説明に始ま



り、かしのもの、かしのもの、八つのはこのの教理を中心に講義を行い、続いて質疑応答を含めたディスカッションが30分間おこなわれました。

講座後のディスカッションでは、受講者から「私の信仰する教えと共通する点がたくさんあったが、神が親である、という概念はとも興味深いと思った」「陽気ぐらしに反する心遣いをほこりに例え、ほこりは積もつてしまうものなので払い続けることが大事」という教えはとも素晴らしいと思った」などの感想がありました。

今より92年前の昭和8年（1933）8月30日、中山正善二代真柱様はシカゴで開催された「世界宗教大会」で「天理教の教祖及び教理」と題して講演されました。当時の建



築100年以上のシカゴ・テンブルビル。スウェンボル図書館は17階にある。

物は1960年代に取り壊され現在は別のビルが建っていますが、偶然にもその場所は図書館の南隣になります。

文岡会長は「二代真柱様にゆかりのあるところから目と鼻の先にある建物、ということとでなにか大きな力を感じました。年祭活動の真つ最中に、92年前に二代真柱様が世界に向けてお話をされたように、自分も気合いを入れて世界へ発信しました。さらに「92」はクニ（邦人）とも読めるので、不思議な縁を感じました」と、年祭活動の旬の力を感じさせる感想を述べていました。
なおオンライン受講者はロサンゼルスやオーストラリアからの参加者もありました。



親里の春暁(2025年4月19日撮影)

すき間の おはなし

煎茶と抹茶のおはなし

片山好造会長様は生前、とりわけ茶(煎茶)と菓を好まれたことが、古い本島通信の回想録の中に記されています。入信前は事業家として酒を飲むこともあったと思われ、ますが、日常的には茶を愛飲され、特にお道に入信してからは上等物ではなく「雁」という茎茶を好んで飲まれたそうです。

筆者はこのたび、京都の煎茶

小川流家元・小川後楽氏より「煎茶」の講義を受講する機会を得ました。日本人の生活に当たり前の「茶」について学び、興味深い「問い」をもつことができました。そこでここでは、茶を好まれた片山好造先生の歴史的・文化的な背景について考えられるところを記したいと思えます。

日本に初めて茶が伝えられたのは平安時代、遣唐使が唐より茶種を持ち帰ったのが最初だと言われています。最澄が持ち帰った一握りの茶種を、比叡山の麓に蒔いて育ったのが現在の日吉茶で、これが日本最古の茶園とされています。

わが国最初の「煎茶」に関する文字資料は、『日本後紀』に記されています。そこには「嵯峨天

皇が弘仁6年(815年)4月、近江国志賀郡への行幸中に梵刹寺で興を停めた際、大僧都永忠が手自ら煎茶を奉御した」とあります。

永忠は唐から帰国した僧で、最澄や空海よりずっと先輩にあたる人です。当時の日本人は唐の王朝喫茶文化に大変な憧れを抱いていました。

この「煎茶」を記した最古の文献である『日本後紀(天文本)』を現在所有しているのが天理図書館です。国の重要文化財に指定されています。

その後、鎌倉時代になると禅宗と抹茶(茶の湯)の時代になります。

煎茶と抹茶は、同じ茶葉から作るのですが、その違いは製法にあります。煎茶は茶葉を蒸したあと揉みながら乾燥させるのに対して、抹茶は揉む工程がなく石臼でひいて粉状にしたもの

です。抹茶は武家文化と結びつき、千利休により茶道が体系化され、江戸時代が終わるまで権力者のたしなみとして発展します。一方、京都の朝廷は徳川幕府

の抹茶を嫌がり、ひそかに煎茶を好みました。江戸時代初期の後水尾法皇は、京都の修学院離宮を造営した際、煎茶の竈を作っています。

「朝廷・天皇・煎茶」と「幕府・將軍・抹茶」の文化的な対立がありました。幕末から明治期にかけて、抹茶から煎茶ブームがおこります。それは武家文化への忌避感と、煎茶にともなうロイヤルイメージへのあこがれがありました。

明治政府は外貨を獲得する輸出のため、全国で茶の生産を進めました。当時、工業製品がない日本で、生糸や茶葉は重要な輸出品目でしたが、一般の庶民にとって茶は気安く飲めるものではありませんでした。

ところが第一次世界大戦の世界恐慌で、茶葉の輸出ができなくなったことから、国内では茶葉の余剰品を抱えることになり、そこから初めて庶民が日常的にお茶を飲むようになったのです。

片山好造会長様が茶を好まれた背景には、このような歴史の経緯がありました。抹茶は禅宗思想がベースにあります。一方、煎茶は老荘思想がベースで、昔から文人が好みました。文人とは、昔の唐や宋など王朝の先進文化にあこがれ

る人々を指します。老荘思想とは、無為自然、あるがまま自然に身を任せるという考え方です。さて、武家⇨抹茶の常識をくつがえすのが丸亀にあります。それが中津万象園です。ここは丸亀藩京極家専用の回遊式の大

名庭園ですが、ここにある茶室「観潮楼」が実は煎茶席になっていて、これが現存する国内最古の煎茶席となっています。

丸亀藩では支配者層である武家も煎茶をたしなんでいたという土地柄も、好造会長様が茶を好まれた背景にあるのではないのでしょうか。

ところで日本の茶のルーツは中国大陸にあります。中国には、日本の茶道に相当するものがあります。近いものに「茶芸」があります。

日本人は茶道に精神性を求めたのに対し、中国人は精神性ではなく「どうやったら美味しく茶を飲めるか」という実利性を求めました。中には曲芸のようなお茶の入れ方もあります。両国の国民性の違いがあつて興味深いところ

です。茶の製法も日本では緑茶と紅茶ぐらいますが、中国では緑茶・白茶・黄茶・青茶・紅茶・黒茶と発酵程度によって呼び方が違います。

中国での一般的な飲み方は、蓋付きの茶碗に茶葉と湯を直接注ぎ、浮いている茶葉を蓋で避けながら飲む「蓋腕」です。日本人は行儀悪いと感じますが、中国人にとっては急須を使わず、お湯を注げば何杯でも飲むことができるので合理的です。

片山好造会長様も旧満州を巡教されながら、中国式の合理的な茶を楽しまれたのではないのでしょうか。

現在の日本でも、茶の製法が研究され新しい製法も生まれています。

その一つ、萎凋煎茶は、茶葉を摘み取った後、ある程度放置して萎れさせ、微発酵させることで独特な香りを引き出す煎茶のことです。一般的に煎茶は収穫後にすぐに蒸して加工しますが、萎凋煎茶は、この萎凋工程を挟むことで、花や果物のような芳香が生まれます。これが商品化されたのが、アサヒ飲料「颯」で、広告では「次世代リフレッシュ緑茶飲料」と売り出しています。

もしこの新商品を片山好造会長様が召し上がったら、どんなお話がきけるのか、想像すると楽しいです。以上2200文字のすき間のおはなしでした。(むかいじよ)

事情はいつ

立教188年4月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教188年3月分)

- 本千代 松原百合子
 - 安藝本中 池田一弘
 - 赤峰 森田穂葉美
 - 神峰 棚原 司
 - 吉松峰 宮林明音
 - 仙峰 向所純平
- 【計6名】

修養科第二〇〇二期修了

(立教188年3月27日修了)

- 本島代 吉川行雄
 - 鶴峰 加藤大岳
- 【計2名】

教人登録

(立教188年3月13日付)

- 本府中 吉田このみ
- 【計1名】

をびや許し

(立教188年3月分)

- 本邦 安藤理沙子
 - 本中国 篠原 希
 - 本高 菅岡美由紀
 - 大英峰 軸丸有希
 - キャツスル アイリス・アヤメ・アカミネ
- 【計5名】

証拠守り下附

(立教188年3月分)

- 大隅聖峰1
- 【計1名】



ろくぢ会

(立教188年4月分)

- ▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△
 - 片山秀明△長尾真実・幸太▼
 - 本権△大上ほの香・はる香・太吉
 - ▼安藝本中△池田こみち
 - ▼崇徳分教会
 - ▼本高分教会
 - ▼ポトランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
- ※芳志に厚くお礼申し上げます



この世のふ初りは
どろろ海

【教会の掲示板】
本島ドットコムよりダウンロードできます

大教会5月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：5月22日大教会5月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
 - 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
 - 申込締切：5月21日午後5時まで
 - ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。
- ※6月月次祭のライブ中継は都合によりありません。



布教部報告(4月分) 数字は本年の提出回数です

統計(3月1日~31日)

にをいがけ名簿提出教会(4月)			
本島	3	本新田	4
本樺太	4	本赤峰	4
本倉岡	4	本雅峰	4
本陸奥	1	本南峰	4
本樺	4	本神峰	4
本京	4	本豪峰	4
本東	4	本倉峰	4
本草	4	本雄福峰	4
本護	3	本栄東峰	4
本三	4	本靈峰	4
本恵	4	本大駿峰	4
本恵山	1	本大英峰	3
本恵明	4	本文峰	4
本静濱	4	本鶴峰	4
本日米	3	本都峰	4
本米	4	本仙峰	4
本米里	4		
本米浜	4		
計52教会		533名	

おさづけ取次報告教会(4月)			
本島	4	本陽山	4
本樺	4	本肥港	4
本倉岡	4	本山陽	4
本陸奥	2	本新田	4
本樺	4	本赤峰	4
本京	4	本神峰	4
本東	4	本倉峰	4
本草	4	本雄福峰	4
本護	4	本栄東峰	4
本三	4	本靈峰	4
本恵	4	本大駿峰	4
本恵山	4	本大英峰	3
本恵明	4	本文峰	4
本静濱	4	本鶴峰	4
本日米	2	本都峰	4
本米	4	本仙峰	4
本米里	4		
本米浜	4		
計63教会		1,624回	

教会名	初席	中席	おさづけ種	修科	教人講習	検定講習
御幸濱		1				
本萬代				1		
本千代	2		1			
本那波			1			
安藝本中			1			
本小倉		1				
本陽山		1				
本赤峰			1			
本神峰			1			
本倉峰		2				
本松峰			1			
本肥八峰			1	1		
本鶴峰			1			
本仙			1			
合計	2	7	6	2	0	0



斯道会別席団参

【団参担当】

- **日にち**：5月25日(日)
斯道会別席団参(本島)
- **別席の誓い**：午前8時～午後3時
※初めて別席を運ばれる方は本島詰所で「初席前のお話」があります
- **別席受付時間**：
午前席：午前8時～9時30分
午後席：正午～午後1時30分
- **記念講演(本島プログラム)**
日時：午前10時～11時
会場：第二食堂
講師：渡辺道治先生
- **お願いごとめ**
日時：午前11時30分、東礼拝場
※おつとめは定時のお祝いごとめ(年祭の心定め)の完遂とご守護の祈念です。おつとめ終了後、解散となります。
- **参加御供**：ひとり500円(高校生以上)
教会ごとにまとめて大教会へお届け下さい
- **前夜祭**
日時：5月24日(土)午後7時～8時30分
会場：本島詰所4階講堂

〈詰所利用について〉

- **宿泊食事御供**：できるだけ教会ごとにまとめてお納め下さい。最終締切日(5/20)以降の食数の変更はできません。
- **駐車場**：本島詰所と麴町第二詰所の駐車場をご利用いただけます。麴町第二詰所は24日と25日のみの利用となります。

みちのだいおはなし会

【婦人会本部】

- **日時**：5月26日(月)午後1時～2時
 - **会場**：東講堂
 - **講師**：木下きしの(天浦委員会会員) 柴田桂子(東支部長)
- ※どなたでも入場できます。託児はありません。

縦の伝道講習会

【少年会本島分会】

- **日時**：5月22日(木)大教会月次祭 神殿講話において
- **講師**：島村正規(少年会本部副委員長、高知大教会長)

おおうら

大裏地区田植えひのきしん

【伏せ込みひのきしん係】

- **三年千日おぢば伏せ込みひのきしん**
- **内容**：大裏地区田植えひのきしん
- **日時**：6月24日(火)
午前9時～ひのきしん終了まで
- **送迎**：8時50分詰所玄関前より出発
- **場所**：大裏地区(天理市豊田町)
- **服装**：Tシャツ、短パン(海水パンツ)、サンダル、帽子
※濡れても汚れてもよい服装
- **作業内容**：田植えなど
- **参加対象**：教会長夫婦および希望者
- **補足**：ひのきしんは内容によって午前中のみになる場合もあります。食事(当日の昼食含む)、宿泊の予約は各自詰所へお申込みください。
- **担当者**：岡崎八十則・永島宗行
- **今回**、申込用紙の配布はありません。大教会ならびに詰所事務所の記入用紙にご記入いただくか、担当者までご連絡ください。

こどもおぢばがえり

【教会本部】

こどもおぢばがえり要項

- **期間**：2025年7月27日～8月3日
- **要項**：インターネットで検索「こどもおぢばがえり」で検索できます
- **留意点**：こどもおぢばがえりは、インターネット(帰参申込システム)での申込となります。全教会に配布する「申込キー」で、帰参予定人数とカレー食数の申込ができます。カレー食数には制限があります。定員制行事のみ、公演前日に帰参申込システムから予約ができます。他にも変更点がいくつかありますので、要項やオフィシャルサイトをご確認ください。

<https://www.honjima.com/>

青年会マンスリー隊

【青年会本島分会】

- **おもに祭典準備ひのきしんを行います**
- **実施日**：立教188年(2025年) 5月18日(日)、6月21日(土)

レッツゴー青年会in九州

【青年会本島分会】

- **日時**：7月12日(土)午後1時～ 7月13日(日)正午解散
- **場所**：赤峰分教会
- **内容**：剪定ひのきしんなど

5月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈本部食堂ひのきしん〉

- **期間**：5月1日～15日
- **派遣**：本浜

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- **期間**：5月21日～22日
- **派遣**：本九

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- **期間**：5月25日～26日
- **派遣教会**：撫川、赤峰

学生生徒修養会 高校の部

【天理教学生担当委員会】

- **期間**：令和7年8月9日～8月13日
- **受講対象**：高等学校に在学し、全期間受講できる者(親里管内については天理高校第I部の自宅通学生に限り受講可)
- **募集人員**：800名(男女各400名)
- **内容**：講話、グループワーク、レクリエーションなど。※別席を受けられる方は9日午前席を運んでください。
- **集合**：8月9日正午(昼食を済ませしてからご集合ください)詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- **解散**：8月13日午後2時頃(予定)
- **受講御供**：10,000円
- **申込期間**：5月25日～7月25日
- **申込方法**：要項をダウンロードしてご確認ください。
- **お問合せ先**：
雲庵春彦 090-2515-8039
横間茂治 090-1138-1690

